

グリーン栽培協議会(愛知県愛知郡東郷町)

1 産地の概要

- ＜対象地域＞ 愛知郡東郷町
 ＜対象品目＞ 露地野菜 少量多品目(イモ類、葉菜類等)
 ＜産地の現状・課題＞

本地域は水稲作1ha・露地野菜5.4ha、合計6.4ha(東郷町聞き取りによる)で有機農業者12名が町内に点在しており、自然農法、有機質堆肥使用など有機農業技術は個別性が強い。

また、当該地域では町として有機農業推進に取り組む意向が強いが、有機農業の推進に際して基準となるモデル的な技術体系がない。そこで、
 ①土壌分析に基づく適正な肥培管理の検討により生産効率の最適化
 ②使用後にすき込めるマルチ資材使用による軽労化③除草ロボットによる夏季の除草労力軽減。これらを組み合わせることで、規模拡大を目指すことのできる有機農業のモデルを検討する。

2 検討体制

- ＜グリーン栽培協議会構成員と役割＞
- ・あいち尾東農業協同組合(事務局)
 農業者との調整、交付金事務手続き、協議会運営、技術支援
 - ・愛知県(尾張農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場普及戦略部)
 事業のコーディネート、技術指導、検証に係る調整、栽培マニュアル、産地戦略のとりまとめ、助言
 - ・生産者(8戸)
 土壌サンプル提供、ほ場管理、調査協力
 - ・東郷町、外部アドバイザー(2名)
 助言、連携など



除草ロボットの操縦の様子



紙マルチの試験の様子

3 グリーンな栽培体系

＜環境にやさしい栽培技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
有機農業	作の前あるいは後	＜取り入れる技術＞ 土壌分析に基づく適正な肥培管理による有機農業推進
		＜見込まれる効果＞ 有機質たい肥などの適正量の投入、生産性の向上

＜省力化に資する技術＞

作業段階	新たに取り入れる技術
①作付け時及び終了後	＜取り入れる技術＞ ①作業後にすき込めるマルチ資材 ②除草ロボット
②栽培期間中(夏秋季)	＜見込まれる効果＞ ①作後の剥ぎ取りの省力 約6時間/10a ②夏秋季の除草労力の約5割削減

4 活動内容及び今後の展開

＜活動内容＞

- ・土壌分析を8ほ場で実施し、営農方法別の特徴について検討した。
- ・マルチ資材を比較検討し、秋冬作は紙マルチ、夏秋作は生分解性マルチ使用により、約6%省力化出来た。
- ・除草ロボットは畦畔では約5割ほど労働時間削減でき、また、身体的な負担も軽減できた。

＜今後の展開＞

- ・土壌分析を作の前もしくは後に実施することで、適正な土壌や肥培管理が可能となる。また、作後にすき込めるマルチ資材や除草ロボットを導入することで新規参入時や規模拡大の際に省力的な管理が可能となる。